

乳幼児突然死症候群（SIDS）について



乳幼児突然死症候群(SIDS)は12月以降の冬期に発症しやすい傾向があることから、厚生労働省は、毎年11月を乳幼児突然死症候群(SIDS)の対策強化月間と定め、SIDSに対する社会的関心を喚起するため、発症率を低くするポイントなどの重点的な普及啓発活動を実施しています。

SIDSとは？



★SIDSは、何の予兆や既往歴もないまま乳幼児が死に至る、原因の分からない病気で、**窒息などの事故とは異なります。**

★令和2年には、全国で**95名**の乳幼児がSIDSで亡くなっており、乳児期の死亡原因としては第3位となっています。



園での取り組み

★各クラス、睡眠中も職員が必ず見守り、呼吸チェックや窒息などの事故防止に努めています。

★0歳児はルクミー午睡チェックのセンサーを導入し、5分ごとに呼吸や向きをチェックし、保育士の目とITの目で見守っています。

★シーツの紐は裏に入れ込み、スタイなど首に巻き付きやすい物は布団に置かない。また布団が顔にかからないように見守りを行う。

発症リスクを低くするためのポイント

■1歳になるまでは、寝かせる時はあおむけに寝かせましょう



SIDSは、うつぶせ、あおむけのどちらでも発症しますが、寝かせる時にうつぶせに寝かせたときの方がSIDSの発症率が高いということが研究者の調査から分かっています。この取組は、睡眠中の窒息事故を防ぐ上でも有効です。

■できるだけ母乳で育てましょう



母乳育児が赤ちゃんにとっていろいろな点で良いことはよく知られています。母乳で育てられている赤ちゃんの方がSIDSの発症率が低いということが研究者の調査から分かっています。

■たばこをやめましょう



たばこはSIDS発症の大きな危険因子です。妊娠中の喫煙はおなかの赤ちゃんの体重が増えにくくなりますし、呼吸中枢にも明らかによくない影響を及ぼします。妊婦自身の喫煙はもちろんのこと、妊婦や赤ちゃんのそばでの喫煙はやめましょう。これは、身近な人の理解も大切ですので、日頃から喫煙者に協力を求めましょう。

乳児保育研修での学び



子どもたちの命と心を
一緒に守っていきましょう！！

★日本産婦人科医会の「赤ちゃんのふしぎな世界」のビデオの中で、**反応が2秒遅れるだけで、乳児は「自分に関心が示されてない」という表情や動きをします。その為、子どものシグナルに敏感にそして適切に対応することが大切です。**

★身近な大人との愛情豊かな関わりの中で愛着関係が育っていきます。愛着関係は自己肯定感の土台となりますので、**子どもの思いに反応し、共感しながら心と心の強い絆を、子どもたちと築いていきましょう。**